

四日市大学 生物学研究所

プランクトン通信

No. 6 2015 年 9 月発行

 おいけしょうたく
御池沼 沢植物群落 (天然記念物)

御池沼沢は、四日市市北部に位置する低湿地^{しっち}です。正確には、『御池沼沢植物群落』と呼ばれ、昭和 27 年 10 月に国の天然記念物の指定を受けました。

今回は御池沼沢の珪藻類^{けいそう}について調べた結果を報告します。御池の中で底泥^{ていでい}を採取し、顕微鏡で種類を確認しました。次のページの写真が代表的な種類です。

御池から見つかった珪藻類は、ざっと 130 種類ぐらいになりますが、まだ種名がよくわからないものがあり、150 種を超えるのではないかと考えています。

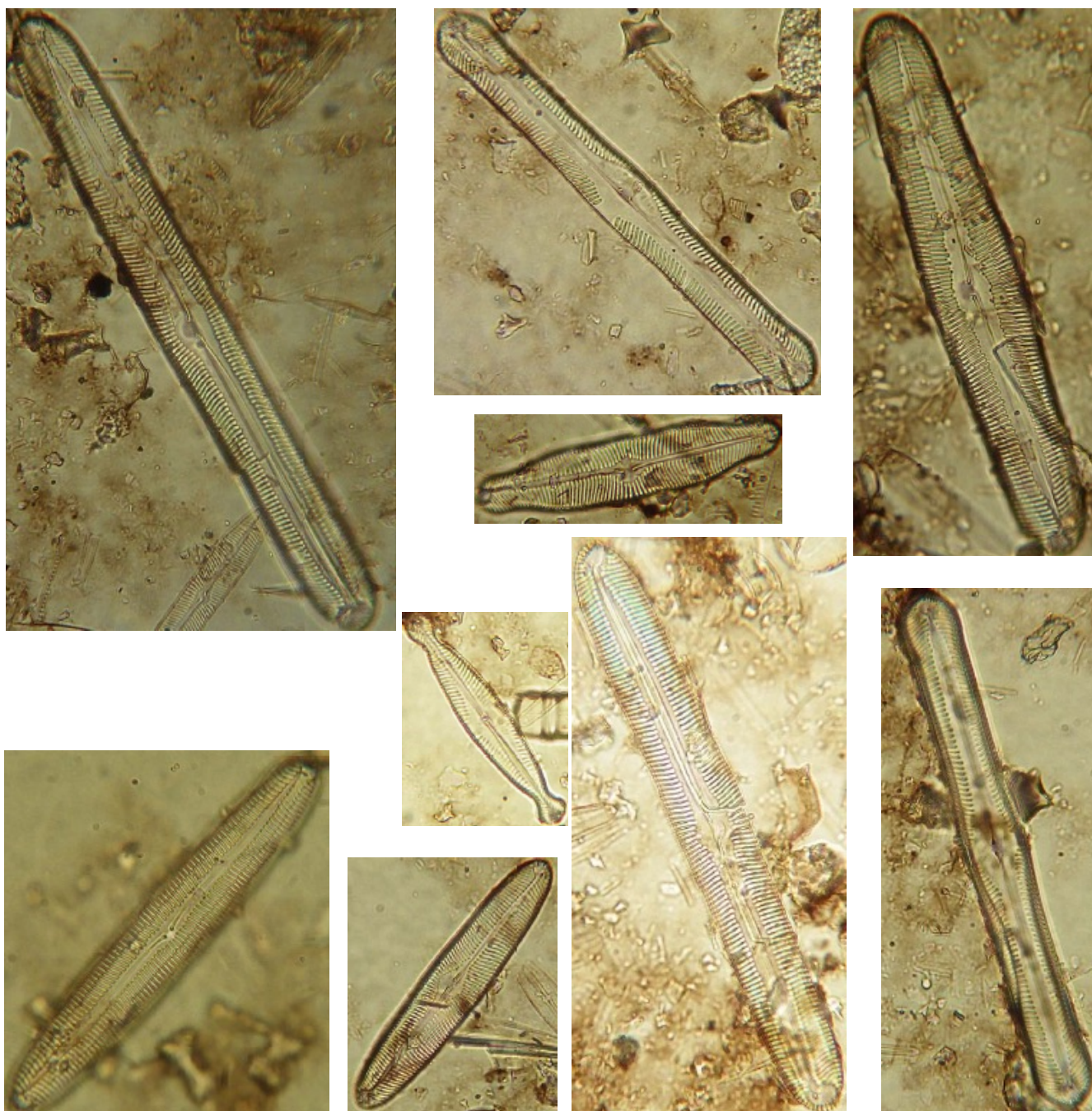


図1 御池沼沢の地図

今回、観察された珪藻類の特徴は、ハネケイソウの仲間、イチモンジケイソウの仲間、ヌサガタケイソウの仲間、ジュウジケイソウの仲間、ハスフネケイソウの仲間などが多いことです。これらは、^{こうそうしつげん}高層湿原や^{ふしよく}湿地などの腐植性水域の指標種とされるもので、御池の湿地環境とよく一致しています。

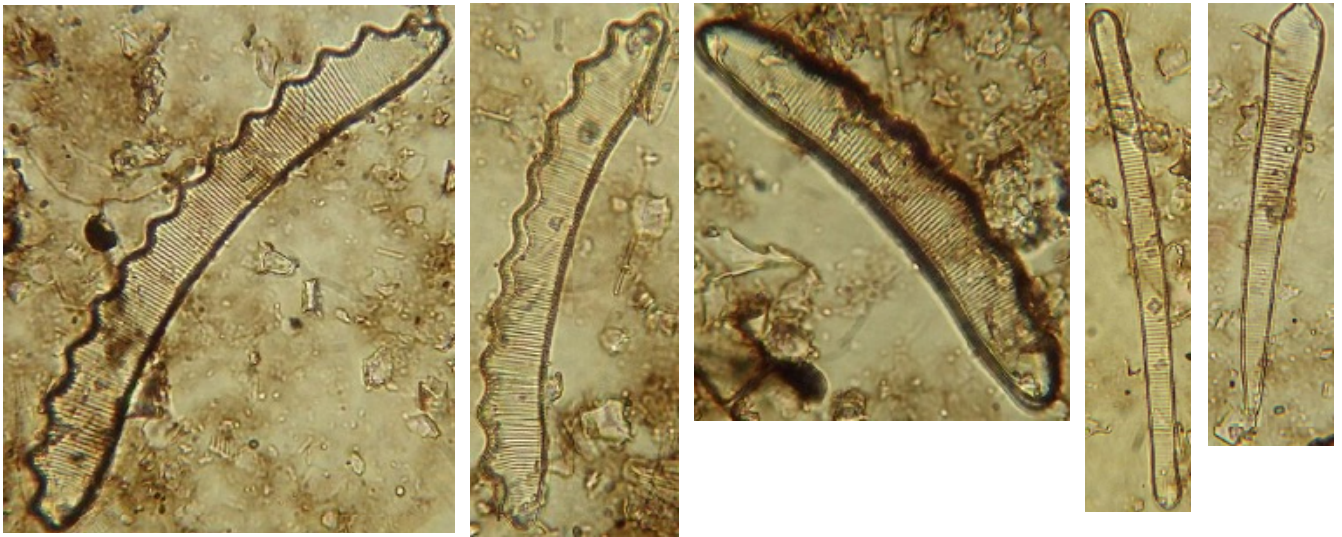
しかし、アウラコセイラのような湖沼の浮遊性珪藻や、河川性の種類も多く、また湿地内に増えてきたマツの花粉も多く観察されました。このことから、御池沼沢の環境が大きく変化してきていることが推察されました。

■ ハネケイソウ (^{ピンヌラリア}*Pinnularia* 属) の仲間：腐植性、強酸性 (pH 3 以下) の水域にも生育する。



0 50 100 μm

■ イチモンジケイソウ (^{エウノティア}*Eunotia* 属) の仲間：代表的な腐植性・弱酸性種、高層湿原に多産する。



■ ヌサガタケイソウ (^{タベラリア}*Tabellaria* 属) の仲間：代表的な腐植性種。



■ アウラコセイラ グラヌラータ (*Aulacoseira granulata*)：代表的な湖沼の浮遊性珪藻。



■ ハスフネケイソウ (^{ネイディウム}*Neidium* 属) の仲間：
池沼底泥上に生育する腐植性種。



■ ジュウジケイソウ (^{スタウロネイス}*Stauroneis* 属) の仲間：河川、池沼に広く生育し、腐植性水域には多い。



御池沼沢は天然記念物に指定されてからすでに 60 年以上が経過しており、湿地特有な植物が著しく減少しています。また、絶滅危惧種^{ぜつめつ き ぐ}とされるような水生植物の大部分は、現在は見られません。そして、湿地の乾燥化が進み、天然記念物に指定された当時には見られなかったマツを始め、多くの樹木が沼沢内に生育するようになりました。

図2に示したように、池沼は年数を経るにつれて周囲から流れ込んでくる土砂や水生植物が堆積^{たいせき}し、次第に浅くなっていきます。これが繰り返されることによって沼沢化が進み、さらに沼沢も樹木が生えるようになることで、陸地化や乾燥化が進みます。最終的には、樹木が優先する森林にまで変遷します。御池沼沢は、現在、図2の真ん中の状態にあります。

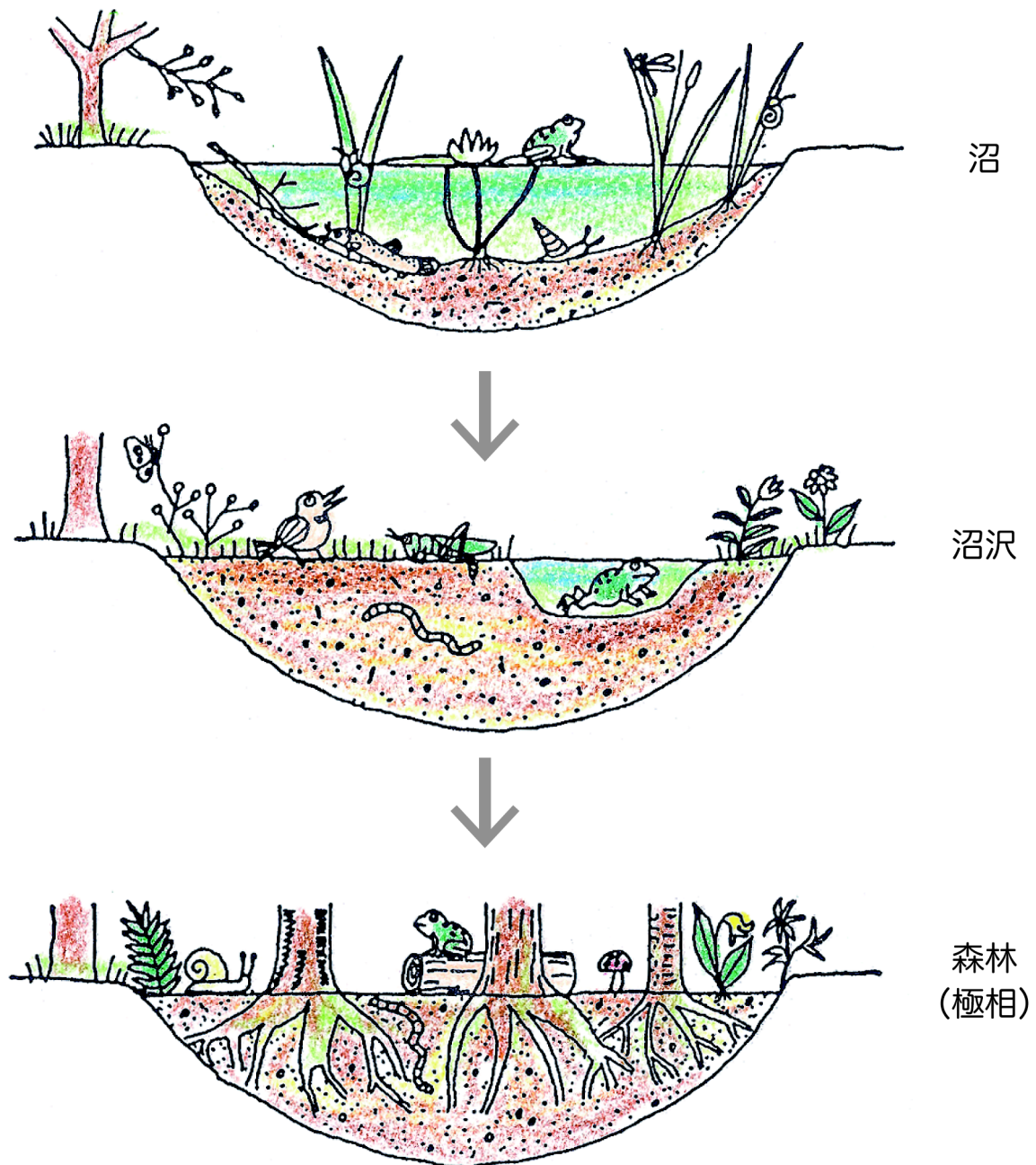


図2 池沼の植物群落の遷移